



## スマホを置いて本を読もう

### ① キーボードを打てない人が増えているらしい

現代は誰もが簡単にインターネットに接続できる時代です。パソコンやスマホ等の端末機器は、もはや「飽和状態」とも言えるくらい社会の隅々まで普及しています。最近ではスマホの普及が進むいっぽうで、パソコンが売れなくなってきています（特に家庭用 PC）。

日本におけるパソコンの出荷台数は 2016 年で 1056 万台。ピークとなった 2010 年の 1527 万台の 3 分の 2 でしかありません。最近ではパソコンが無いという家庭や、JIS 配列のキーボードが満足に打てない（ローマ字入力ができない）人も増えているそうです。将来仕事をするときに、これはちょっと心配…。

### ② かつての時代は…

私は大学進学で東京に出ました。そのとき「東京の人っていうのはとても良く活字を読む人達だなあ」と感じました。朝の満員電車のなかでは、背広を着たサラリーマンが狭いスペースのなかで四つ折りにした新聞を読んでいる。文庫本を広げて読んでいる。昼の空いた時間に椅子に座っている人たちは、目をつぶっているか本を読んでいる。学校帰りに大きな書店に行けば、たくさんの人たちが目を凝らして本選び。スーパーで使う大きさの買い物カゴを持って本選びをしている人も。何台ものレジには人の列ができ、支払いでは一万円札が普通に使われている。そういう光景は、田舎の高校から出て行った自分にとってカルチャーショックでした。それ以降、私は失っていた何かを取り戻すように本を読むようになりました。

### ③ 今は…

今はどうでしょう？ときどき都内を電車で移動してみると、多くの人がスマホの画面に見ています。ゲームをしている人もいます。本を読んでいる人は少数です。学生時代に通った大型書店へ行ってみると、以前より人の数が減っているような気がします。

地方の書店にいたっては深刻です。書店といいながら、そもそも満足な書籍が置かれていない店もあります。書棚に並んでいるのは雑誌、漫画、実用書、そして一時的にしか売れない「ベストセラー」。



### ④ 学校図書館

そこへいくと、那珂高校の図書館はとても良いです。いろいろな分野の書籍が幅広く揃っているし、文庫や新書も充実。各分野で話題となった新刊本も入ってきています。情報の入り口である新聞・雑誌も豊富です。また、一般の書店は利益を上げなければいけないので、どうしても新しい本が中心になりますが、図書館は時代を超えて読む価値のある本が所蔵されています。これは何事においても言えることですが、**本当に大事なものは意外と自分の足元にある**のです。私たちは、玉石混淆にして茫洋たるネットの海を泳がずとも、同じ建屋の部屋を移動するだけで、広く深い知の海に出会うことができるのです。しかもお金が掛からない！

### ⑤ 原点に立ち帰ってみよう

スマホやネットの効用を否定するものではありませんが、今の時代は明らかにそちらに振れすぎています。スマホやネットは、ともすると必要以上にアクセスしてしまつて時間を浪費しがちです。また、ネットに溢れる断片的で直截的な言葉や情報は、しばしば人間の思考を深みのないものにし、感情の有様を短気で攻撃的なものにしてしまいます。私たちは、自分の言葉や思考を貧しくしないためにも、もう一度**原点に立ち返って活字を読む習慣を取り戻す**必要があるのではないのでしょうか？

日本では「新しい学力観」なるものが打ち出されていますが、それとて肝心なことは、教科の**基礎学力**をしっかりとつけること。そして日頃から本を読んで自己の**関心・思考力**を深めること。それを自分の言葉で**論理的**に話せる・書けることなのです。つまり、言葉を獲得した人間の知的な営みとしては「原点」に立ち帰っているのです。

デジタルに振れすぎた時代だからこそ原初的な行為が価値を持つ。逆説的ではありますが、これからはそういう時代になっていくでしょう。いえ。もう、そういう時代なのです。